

# 乙 頁

お と さ だ

第51号 通巻10巻第2号  
1990年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター  
☎0775-85-4397

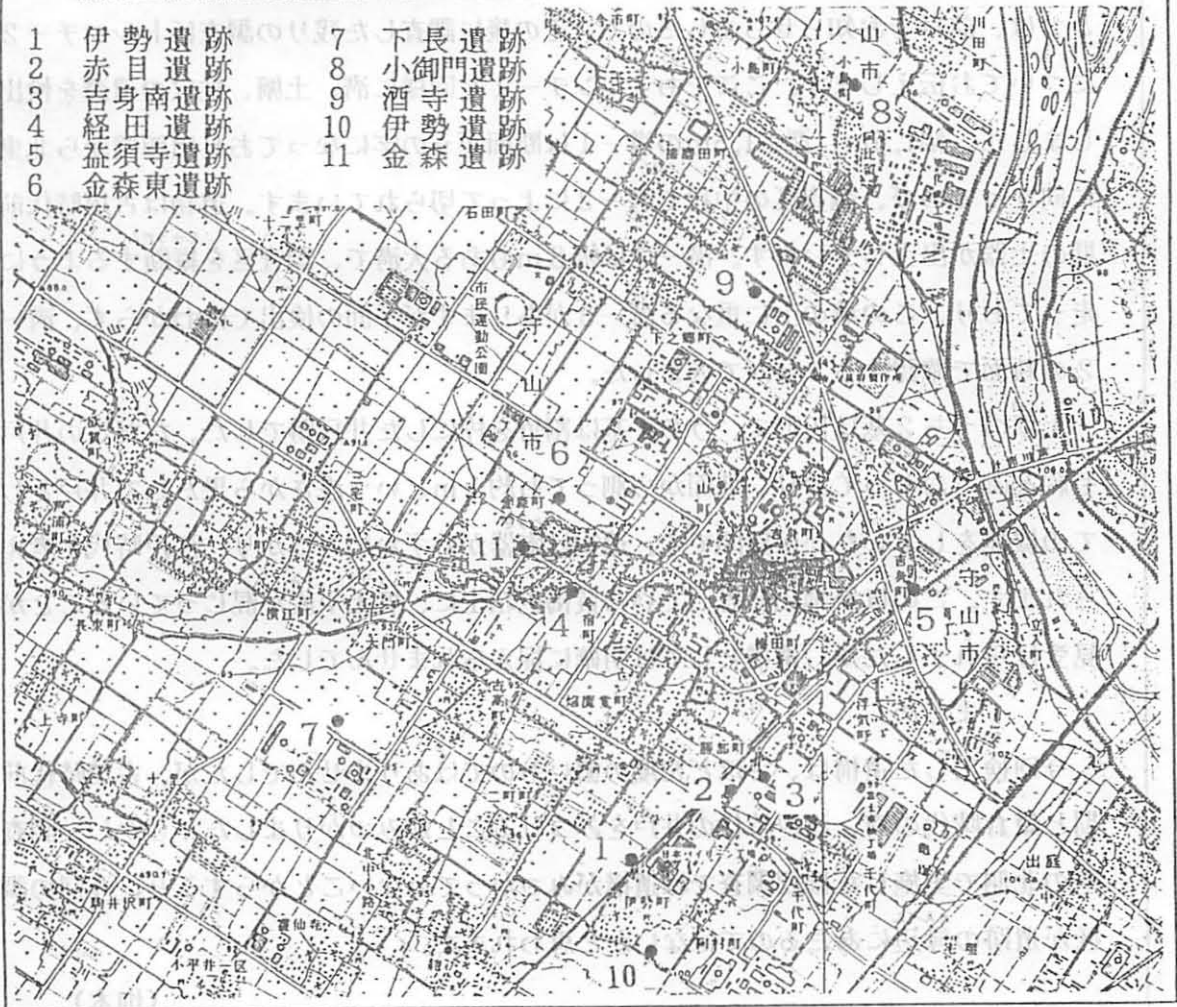
〒524-02  
守山市服部町2250番地

☆ はじめに ☆

本格的な夏を迎えつつある今日この頃、市内遺跡の調査件数は増え続け、担当者全員フル稼働、灼熱の太陽のもと、ねじり鉢巻きで焼土と格闘しております。それでは市内遺跡調査の動向からお伝えしていきます。

## 遺跡調査位置図

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 伊勢遺跡  | 7 下長遺跡  |
| 2 赤目遺跡  | 8 小御門遺跡 |
| 3 吉身南遺跡 | 9 小酒寺遺跡 |
| 4 経田遺跡  | 10 伊勢遺跡 |
| 5 益須寺遺跡 | 11 金森遺跡 |
| 6 金森東遺跡 |         |



☆ 発掘調査だより ☆

< 調査終了 >

1. 伊勢遺跡

調査地. 守山市伊勢町上阿ノ岡  
調査期間. 4月20日～6月4日  
調査面積. 2000㎡  
調査実施の理由. 民間による宅地造成の事前調査  
調査概要.

現地調査は6月4日ですべて終了しました。2箇所に分かれた調査区のうちのひとつは、前号でお知らせしましたので、その後に調査した残りの調査区トレンチ-2についてお伝えします。ここでもトレンチ-1と同様に溝、土塼、柱穴の遺溝を検出しました。幅1.5m、深さ1.5mの溝-1は断面がvの字になっており南西壁から北東に向かってのび、調査区の中程で溝-2によって切られています。遺物は古墳時代前期の土器が出土しています。溝-2は幅8mもある大溝で、調査区を縦断するように走っており、この溝の上に重なる溝-3がありますが平面の検出ではわからず、溝-2の断面で確認することができました。

土塼のうち2基は円形で、うち1基は割竹を枠にした井戸跡でした。ただこの井戸も約20cmでおわっており、地面から測っても約1mという浅さから果たして井戸としての機能をしていたかは疑問です。遺物は陶器がわずかにみつき、江戸時代と考えられます。このほか地山と思っていた黄褐色粘土に、焼土や炭が混じっていることが見受けられましたが、遺構としては明確に捉えられませんでした。

まとめ.

今回検出した遺構は、さほど密度の濃いものではありませんでしたが、古墳時代前期と鎌倉時代の溝、江戸時代の井戸をみつけることがみつきました。しかし、調査地の北側で実施した確認調査では遺構がみつからないことからすると、今回の調査区が遺跡の縁辺にあたるのではないかと考えられます。

(如木)

## 2. 赤目遺跡

調査地. 守山市勝部町下赤目  
調査期間. 6月19日～6月21日  
調査面積. 150㎡  
調査実施の理由. 事務所建築に伴う調査

### 調査概要.

地面より約1m掘り下げたところから、溝1条を検出しました。この溝は調査区の端で見つかり、また一部攪乱を受けていたため規模等はわかりませんが深さは約80cmを測ります。遺物は奈良時代の須恵器、土師器がみつかっています。溝からわずかに離れたところより、大きく落ち込んでおり、後世の攪乱を受けています。

### まとめ.

赤目遺跡は、確認調査によって新たに見つかった遺跡です。本調査では、溝1条の検出という結果でしたが、この溝は区域外へ延びていることから、遺跡はさらに周辺へ広がるのが予想されます。

(畑本)

## < 調査中 >

## 3. 吉身南遺跡

調査地. 守山市勝部町字火屋西外  
調査期間. 6月28日～7月4日 予定  
調査面積. 200㎡  
調査実施の理由. 社員寮建設に伴う調査

### 調査概要.

確認調査では、申請地の南側付近で遺構が見つかり、この部分について調査を実施しました。その結果、調査地はこれまでの吉身南遺跡の範囲外にありますが、確認調査によつて遺構、遺物がみつかったことから、この地まで吉身南遺跡が広がっていたことがわかりました。

(畑本)

#### 4. 経田遺跡

調査地. 守山市今宿町字経田  
調査期間. 6月6日～8月31日 予定  
調査面積. 2900㎡  
調査実施の理由. 民間による宅地造成の事前調査  
調査概要.

開発区域の北半を調査しており、弥生時代終わり頃から古墳時代初めと考えられる方形周溝墓、溝状遺構がみつかっています。方形周溝墓は一边約8mで比較的小型の部類で、南側の半分が検出されていて三辺が途切れています。

(山崎)

#### 5. 益須寺遺跡

調査地. 守山市吉身5丁目99番地  
調査期間. 5月18日～7月31日 予定  
調査面積. 2400㎡  
調査実施の理由. 営業用倉庫建設に伴う調査  
調査概要.

本調査では現在までのところ10～11世紀初めにかけての掘立柱建物、溝、土塀がみつかっています。柱穴は調査地南側に集中していて、建物の建て替えが何度も行われていたことがわかります。建物には掘方の大きさが1mを超えるものもあり、かなり大型の建物もあります。遺物は、柱穴や溝から土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器が出土しています。

(宮下)

#### 6. 金森東遺跡

調査地. 守山市金森町字東町  
調査期間. 6月11日～8月15日 予定  
調査面積. 2000㎡  
調査実施の理由. 都市計画街路古高-川田線道路改良工事に伴う調査

## 調査概要.

守山高校の西側で試掘調査を行い、古墳時代～平安時代の溝跡、柱穴を検出しました。本調査は、6月11日から着手し、山柿団地の南端から表土の除去し、遺構の確認を行なっています。

現在までに土壙、溝状遺構がみつかっていて、鋭意<sup>い い</sup>検出に努めています。遺構は古墳時代前期と思われます。

(山崎)

## 7. 下長遺跡

調査地. 守山市古高町字北八重外  
調査期間. 平成2年4月～9月30日 予定  
調査面積. 約24000㎡  
調査実施の理由. 工場建設に先立つ事前調査

## 調査概要.

平成元年度に引き続き実施していて、昨年度と同様に旧河道と集落跡を調査しています。旧河道については現在のところ小面積を掘削したのにすぎませんが、縄文時代晩期、弥生時代、古墳時代の遺物が多数出土しています。とくに古墳時代の土師器、木製品が大多数を占めこの当時の集落が大規模なものであったことが再認識できます。

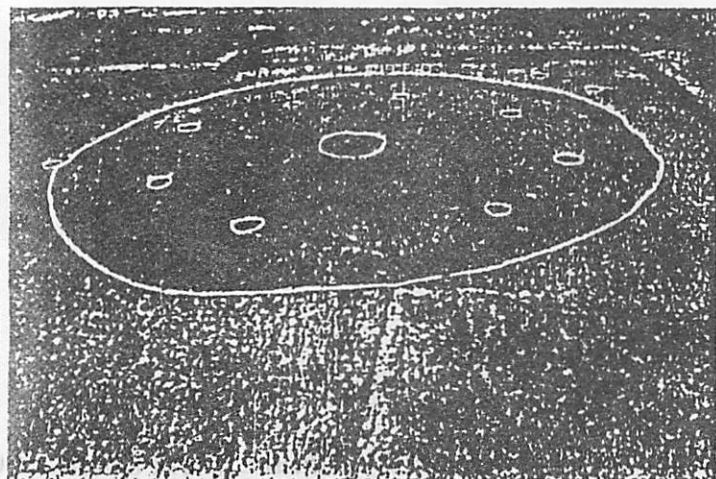
集落跡は弥生時代中期、古墳時代の2時期がみつかっています。弥生時代中期の集落は竪穴住居と掘立柱建物、土壙等が散在する状態です。竪穴住居は径約8mと大型で、円形というより多角形の平面形状をして、8穴の支柱穴と中央に土壙が床面からみつかっています。。一方古墳時代中期の集落は、より旧河道寄りに位置し、密度も高く、竪穴住居4棟、土壙、溝のほか、今回初めて井戸跡もみつかりました。。旧河道に重複する位置に掘られていて、四角に側板を並べ横棧で固定する構造で、一辺約1.2m、深さは1.4m程度をはかります。旧河道と井戸が重複していることは、古墳時代にムラが営まれていたときには、すでに旧河道の埋没し終えていたと考えることができます。

まとめ.

下長遺跡の調査地には、中央の旧河道の左岸に弥生後期～古墳時代前期のムラが、そして右岸には縄文晩期、弥生中期、古墳中期のそれぞれのムラが営まれました。

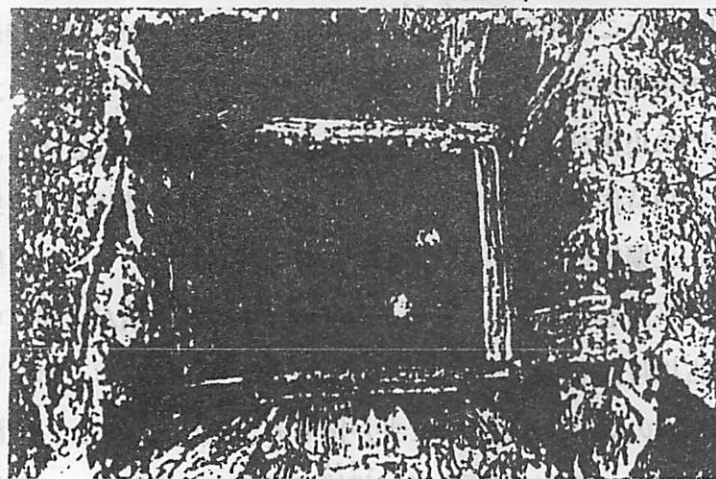
今年度の調査によつて、右岸の古墳時代中期のムラが左岸に形成された弥生～古墳時代の大集落に匹敵するほどの規模であることが次第に明らかになってきています。

(岩崎)



下長遺跡弥生時代中期の  
多角形住居

中央に円形の上壙があり  
周囲8穴に主柱穴跡がある。



下長遺跡で検出した井戸  
で、内からは古墳時代前  
期の甕形土器が出土した。

〈 調査開始 〉

8. 小御門遺跡

調査地. 守山市川田町字小御門

調査期間. 7月20日～11月20日 予定

調査面積. 1870㎡

調査実施の理由. 都市計画街路古高一川田線道路改良工事に伴う調査

調査概要.

小御門遺跡は実施理由のとおり、道路改良が行なわれるのに際し、遺跡の有無について6月24日に確認調査を実施しました。結果は計画地全域にわたって、2層の遺構と古墳時代から近世までの遺物が見つかり、これまで遺跡外であったこの地にも遺跡が所在することがわかり、小字名をとって遺跡名を名づけました。市内で127番めの遺跡になります。今回の調査はこの確認調査により、幅11m、長さ170mにわたって全面発掘を実施します。

(畑本)

### 9, 酒寺遺跡

調査地. 守山市播磨田町地先

調査期間. 7月2日～平成3年2月28日 予定

調査面積. 12000㎡

調査実施の理由. 土地区画整理事業に伴う調査

調査概要.

今回の調査予定地は下之郷遺跡との隣接地にあたり、同遺跡の規模や広がりについて、新たな知見を加えることが期待されます。昨年度発見された酒寺遺跡の方形周溝墓群から出土した土器は、下之郷遺跡の遺物と年代がほぼ一致しており、埋葬された人々は下之郷遺跡に住んでいたのではないかと考えられます。調査については進み次第報告したいと思います。

(伴野)

### 10, 伊勢遺跡

調査地. 守山市伊勢町字東浦

調査期間. 7月20日～8月30日 予定

調査面積. 500㎡

調査実施の理由. 倉庫建設に伴う調査

調査概要.

これまで平面検出の作業が行なっている段階ですが、既に方形の竪穴住居が3棟、2間X2間で束柱を持つ掘立柱建物が1棟検出されています。表面採集の土器から見て、弥生時代後期と考えられます。調査は約1カ月間の予定で行ないますので、現地へ気軽に御見学にきてください。

(伴野)

11, <sup>かねがもり</sup>金森遺跡

調査地. 守山市金森町  
調査期間. 8月20日～9月30日 予定  
調査面積. 500㎡  
調査実施の理由. 都市計画街路古高一川田線道路改良工事に伴う調査  
調査概要.

今回の調査は、現在行なっている地点(3, <sup>かねがもりひがし</sup>金森東遺跡)から約200m南の金森遺跡にもかかっており、<sup>しろのした</sup>城ノ下団地の北端で調査を実施する予定です。なお、ここからは弥生時代～古墳時代の溝が見つかっており、成果が期待されます。

(山崎)

☆ 特別展終了 ☆

去る4月29日から5月13日まで「平成元年度調査速報展」と題して開催しました特別展は、約900人の見学者がみえられ、好評のうちに終了しました。期間中は親子づれや小学生の校外学習として来館者が<sup>た</sup>絶えませんでした。今回は元年度中に実施した33遺跡のうち良好な遺構や遺物がみつかった14遺跡を取り上げて展示したわけですが、このなかで下長遺跡から出土した数多くの木製品に関心が寄せられていました。次回の特別展は、11月末～12月にかけて、市民ホールにて開催を予定しております。詳細は11月号でお知らせいたします。

【後記】 乙貞を編集するかたわら以前の既刊乙貞を併読しています。乙貞も今号ですでに51号、紙面に綴られた調査速報は各所で展開された遺跡調査の切迫した状況を今に伝え、また文化財サイドからの主義、主張を盛り込んだ特集、エッセイは、人をして共感をさそいます。これからも以前に負けない乙貞創りを心がけます